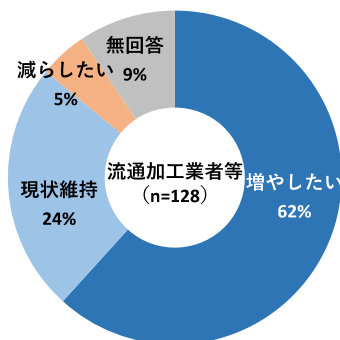


(5) 有機農業の拡大

1. 取組の必要性（背景）

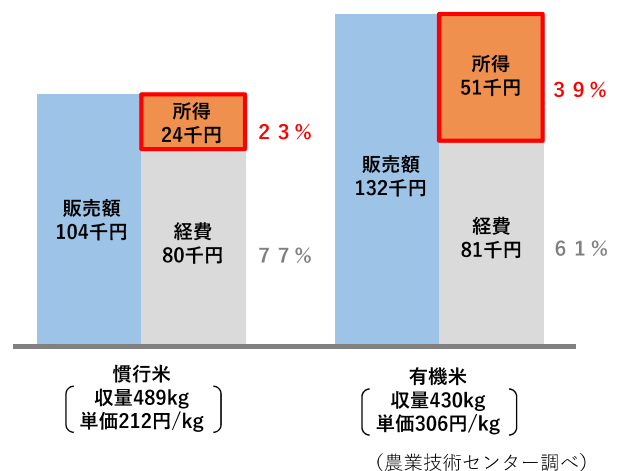
- 食に対する安全・安心のニーズが一層高まる中で、環境保全にも配慮した有機農業に対する需要は、今後も更なる伸びが確実に見込まれています。
- 有機農業は契約販売等により、安定した収益が確保でき、高騰する化学肥料や農薬の使用も抑えることができるため、全国的に取組が拡大しています。
- 特に有機米については、近年の資材高騰を踏まえ、米の収益性の向上に向けて取組が拡大しており、10haを超える大規模な生産も始まりました。一方、更なる規模拡大に向けた課題として、多くの生産者が乾燥・調製を自前で行っていることや、慣行栽培からの転換に新たな設備投資などが必要であることから、今後は、機械や施設の共同化等の取り組みやすい環境づくりが必要です。
- また、有機野菜については、比較的生産し易い葉物野菜を中心に生産されてきましたが、全国的に有機野菜の生産が拡大した結果、葉物野菜が飽和状態となりつつあります。
一方、小売店からは葉物野菜以外の果菜類、根菜類の生産を求められており、こうした品目の生産技術の確立と生産拡大に向けた産地づくりを進めていく必要があります。

■全国の流通加工業者等における今後の有機農産物等の取扱意向（回答数128）

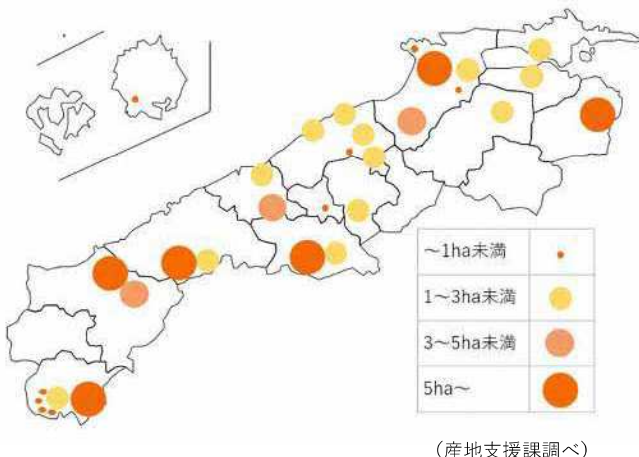


（出典：㈱マイファームほか「有機農業推進総合対策緊急事業『令和5年度有機農産物の販路拡大に関するアンケート調査報告書』」（令和6年3月）

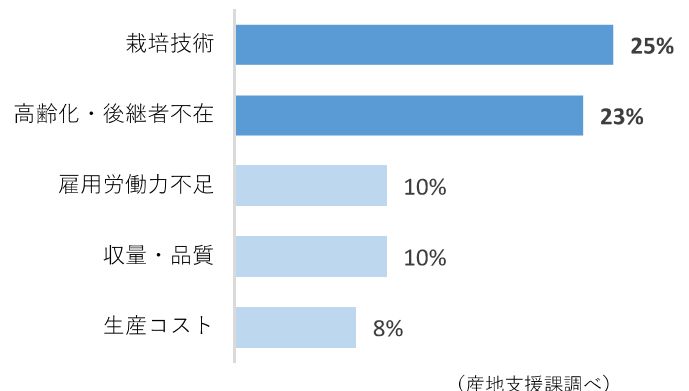
■有機米と慣行米の収益性（10a当たり）（R5）



■有機米の規模別有機JAS認証事業者分布（R5）



■有機JAS認証取得者(野菜)の栽培面での主な課題（R5：回答数73※複数回答）



2. 5年後の目指す姿

- 有機JAS認証ほ場の耕地面積に占める割合1.5%以上を達成（R5：0.79%）
＜参考指標＞
・有機JAS認証面積285ha（R5）から550ha（R11）に拡大

3. 今後の取組の概要とポイント

(1) マーケットインの視点での有機農産物の生産

有機農業の推進にあたっては、有機農業に取り組む生産者の経営が成り立つようにしていくことが重要であり、マーケットインの視点で県産有機農産物の価値を評価していただける実需者との取引の拡大を進めていきます。

産地づくりに向けたPRや販売促進、県産品へのアドバイスなどに協力いただける「パートナーシップ連携協定」締結企業などと連携し、実需者ニーズや流通事業者の情報を把握し、求められる品目等が生産現場で栽培できるよう、生産から販売までの一体的な取組を強化します。

首都圏への販路拡大にあたっては、荷物の集約化等により、物流コストの低減の取組を支援します。

また、第三者機関が認証し「有機」の表示ができ、消費者や実需者に強い訴求力のある「有機JAS認証」の取得を継続して支援します。



〈販路の確保・拡大に向けて
実需者の産地訪問の実施〉

(2) 有機農業の産地形成

有機農業の生産拡大に向けて産地づくりの拡大に取り組みます。

有機米では、米卸等から求められるロットを確保するため、専用品苗の供給体制や除草機械の共同利用、乾燥調製施設の整備などに加え、品種による作期分散や追肥の省力化技術の導入などにより、すでに取り組んでいる農業者の規模拡大や新規栽培者の確保を進めます。

有機野菜では、小売店等から求められる果菜類や根菜類の導入・拡大を進めるため、地域に適した品種や作型を検討し、栽培技術の確立に取り組み、早期の普及を図るとともに、作業の省力化や規模拡大に向けて、機械化体系の確立や調製作業の共同化など、地域での仕組みづくりを支援します。



〈有機農産物に表示できる
「有機JASマーク」〉

(3) 有機農業の担い手の確保・育成

有機農業の産地形成に向けて、新たな担い手の確保を加速化するため、有機栽培の実証など試行的な取組や、機械レンタルの仕組みづくりなど、慣行栽培からの転換を促す地域での取組を支援し、農業者が安心して有機農業に取り組める環境を整備します。

産地の将来の担い手となる就農希望者が着実に就農し、早期に経営の安定化が図られるよう、就農パッケージの作成や新規就農者の育成に理解のある農業法人等と連携して行う研修など、市町村やJAなど関係機関と連携して、栽培技術と農業経営の支援を行うサポート体制を整えます。



〈実需者ニーズの高い品目
(ブロッコリー)の導入〉

(4) 有機栽培における生産安定技術の確立・普及

収益確保に向けて、慣行栽培の8割以上の反収が確保できる栽培技術の確立・普及を図ります。

米では、新規栽培者や経験の浅い農業者等を対象に、有機栽培で課題となる除草対策や水管理などの技術指導を徹底します。

野菜では、果菜類や根菜類などの産地化を進める生産者を対象に、育苗技術や病害虫対策、排水対策などの技術指導を徹底します。



〈研修会による有機栽培
技術の習得〉